

改善報告書

大学名称 大原大学院大学 (大学評価実施年度 2019 年度)

1. 大学評価後の改善に向けた全般的な取り組み状況

指摘された改善課題のうち、大学運営の根幹に関わる収支状況（改善課題 7）と学位授与方針（改善課題 3）については、後述のように大学執行部（2022 年度から大学運営会議）がすぐさま着手し一定の成果をあげたと評価されるが、その他については改善の取り組みは十分ではない。開学以来収支差額のマイナスが恒常化していた本学は学内システムのデジタル化にほとんど着手できていなかったこともあって、2020 年度中は新型コロナへの対応に終始した。上記 2 つの改善課題以外については、ようやく 2021 年度半ばあたりから改善に向けた取り組みに着手したのが実情である。

まず内部質保証体制の再整備（改善課題 1）が喫緊であったが、大学評価では、自己点検・評価委員会と将来計画検討委員会の協働による内部質保証の推進体制についてその役割分担の曖昧さを指摘され、内部質保証を確実に遂行するためには、責任の所在を明確にし権限を確立する必要があることを再認識した。そこで、学内委員会の業務を見直し委員会組織を再編した折に、自己点検・評価委員会を定期的な自己点検・評価の実務を担う組織としてあらためて位置づけ、将来計画検討委員会は廃止し、学長（議長）、研究科長、副研究科長、事務局長からなる執行機関である大学運営会議に、内部質保証を推進しその達成に責任を負う機関としての役割を明確化した。自己点検・評価委員会は、適切な評価基準にもとづき学内の各委員会および事務局等で定期的に行われる自己点検・評価の結果を全学的に総括し、学長（大学運営会議）に報告する。大学運営会議は、自己点検・評価委員会の評価結果について審議し、課題に対する改善方針の策定あるいは関係する部門への検討要請を行い、それを実施し点検することで内部質保証の推進を担う。また、認証評価機関や外部識者による検証結果からの指摘事項に対して速やかにかつ適切に対応する。

現状では、大学運営会議は、学習成果の把握と評価（改善課題 4）の施策について 2025 年度からの実施を目指して、教務委員会に検討を要請している。また、FD活動およびSD活動の改善（改善課題 5 および課題 6）については、まずは外部講師を招いての研修会のテーマに反映させるものとして、FD・SD委員会に対して考慮するよう要請した。教員数・事務局職員数が少ないことから、年間で開催できる研修会の回数が限られることもあり、特にFD活動については不十分で改善の余地ありと評価している。

<根拠資料>

資料 1-1 第 166 回（2022 年 4 月）教授会資料 新年度の委員会について

資料 1-2 教育研究組織図

URL : [02_soshiki01_1686275283.pdf \(o-hara.ac.jp\)](https://o-hara.ac.jp/soshiki01_1686275283.pdf)

資料 1-3 内部質保証の方針

URL : [1690535964.pdf \(o-hara.ac.jp\)](https://o-hara.ac.jp/1690535964.pdf)

2. 各言の改善状況

(1) 是正勧告

是正勧告はなかった。

(2) 改善課題

No.	種 別	内 容
1	基準	基準 2 内部質保証
	提言（全文）	内部質保証に責任を負う組織として「自己点検・評価委員会」及び「将来計画検討委員会」を位置付けているものの、内部質保証体制における両者の役割はあいまいであり、自己点検・評価に基づく改善・向上への取組みが不十分であるため、内部質保証に責任を負う組織の役割を明確にし、自己点検・評価及びその結果に基づく改善・向上のプロセスやマネジメントの仕組みを構築し、内部質保証体制を整備・機能させるよう改善が求められる。
	大学評価時の状況	自己点検・評価委員会は、教育研究に関する全学の活動状況並びに組織、施設・設備、運営の状況及び財務状況について全学的な立場に立ち自己点検・評価を行って学長に報告する役割を担い、将来計画検討委員会はその結果を受けて課題を審議し、改善・向上への方策の検討あるいは検討の指示を行う役割を担うものとして、両者の協働による内部質保証体制としていた。しかし、両委員会に兼任する教員・職員も複数名いることもあり、必ずしも両者の役割分担が明確になっておらず、それゆえに内部質保証を推進する責任の所在が不明確となり、内部質保証体制が機能しない恐れが生じていた。
	大学評価後の改善状況	本学では、2022年に全学的な委員会業務の見直しを行い、委員会組織を再編した。（資料 1-1） 将来計画検討委員会は廃止し、自己点検・評価委員会を定期的かつ全学的な自己点検・評価の実務を担う組織としてあらためて位置づけ、学長、研究科長、副研究科長、事務局長からなる大学運営会議を、自己点検・評価委員会の評価結果を審議し、課題に対する改善方針を策定し、その実施、点検に責任を負うものとして、内部質保証体制を機能させること

		とした。(資料 1-2 および資料 1-3)
	「大学評価後の改善状況」の 根拠資料	資料 1-1 第 166 回(2022 年 4 月)教授会資料 新 年度の委員会について 資料 1-2 教育研究組織図 URL : 02_soshiki01_1686275283.pdf (o-hara.ac.jp) 資料 1-3 内部質保証の方針 URL : _1690535964.pdf (o-hara.ac.jp) 追加資料 2-(2)-1-1 執行部議事録(2022 年 4 月 6 日抜粋) 追加資料 2-(2)-1-2 自己点検・評価委員会 規程 追加資料 2-(2)-1-3 執行部会資料(2021 年 6 月 21 日) 追加資料 2-(2)-1-4 第 179 回(2023 年 6 月)教授会資料 2023 年自己点検評価委員会年 間活動計画 追加資料 2-(2)-1-5 2020 年度の自己点 検・評価検討課題
	<大学基準協会使用欄>	
	検討所見	
	改善状況に関する評価	5 4 3 2 1
No.	種 別	内 容
2	基準	基準 2 内部質保証
	提言(全文)	財務計算書類に関し、財務三表のうち資金収支計 算書をホームページ上で公表していないため、改善 が求められる。
	大学評価時の状況	上記の通り。
	大学評価後の改善状況	現在はホームページ上で公表している。(資料 2- (2)-2-1)
	「大学評価後の改善状況」の 根拠資料	資料 2-(2)-2-1 財務情報 URL : 学校法人大原学園 財務情報 (o-hara.ac.jp)
	<大学基準協会使用欄>	
	検討所見	
	改善状況に関する評価	5 4 3 2 1

No.	種 別	内 容
3	基準	基準 4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	会計研究科会計専攻では、学位授与方針に、修得すべき知識、技能、能力等当該学位にふさわしい学習成果を示していないため、改善が求められる。
	大学評価時の状況	学位授与方針においては、「修了生が学術的な研究による知識、実務で求められる技能、さらに高い職業倫理観を備え、国際感覚を身に付けた公認会計士、税理士、企業及び公的機関の財務部門のスペシャリストなどの高度会計専門職業人として、社会に貢献できる人材となることを到達目標」とすること及び修了要件のみを示し、修得すべき知識、技能、能力等当該学位にふさわしい学習成果を具体的に示していなかった。
	大学評価後の改善状況	大学執行部（2022 年度からは大学運営会議：議長は学長）は、教育課程連携協議会にも提言を求めるなどして新しい学位授与方針を検討、教授会の承認を得て次のように改訂した。（資料 2-（2）-3-1） 「大原大学院大学会計研究科は、所定の修了要件を満たし、以下の目標を達成した学生に専門職学位を授与する。 ・ 高度会計専門職業人として必要な、会計、監査、税法に関する専門的知識と実務能力を有していること。 ・ 高度会計専門職業人として必要な、論理的な思考力、判断力、適切な表現力および国際感覚を有し、実践的な問題解決力を身に付けていること。 ・ 高度会計専門職業人として高い職業倫理観を有し、社会的な責任を果たす使命感を身に付けていること。」 以上のように、学位授与方針に高度会計専門職業人が有すべき知識・技能、能力、心構え等について具体的に記述し、その修得をもって学位を与えることを明記している。
	「大学評価後の改善状況」の根拠資料	資料 2-（2）-3-1 学位授与方針 URL：学位授与 大原大学院大学 会計研究科 (o-hara.ac.jp)

		追加資料 2-(2)-3-1 執行部会資料 (2020 年 3 月 12 日) 追加資料 2-(2)-3-2 教育課程連携協議会議事録 (2020 年度第 1 回および第 2 回) 追加資料 2-(2)-3-3 執行部会議事録および資料 (2021 年 8 月 4 日抜粋) 追加資料 2-(2)-3-4 第 179 回 (2023 年 6 月) 教授会議事録抜粋
＜大学基準協会使用欄＞		
	検討所見	
	改善状況に関する評定	5 4 3 2 1
No.	種 別	内 容
4	基準	基準 4 教育課程・学習成果
	提言 (全文)	学習成果について、「修了生意見交換会」でのヒアリングを通じた把握及び評価に取り組んでいるものの、学位授与方針に明示した学習成果を適切に把握及び評価しているとはいえないため、改善が求められる。
	大学評価時の状況	授業アンケートや修了生意見交換会において学生本人による学習目標の達成度を調査することで学習成果を把握および評価しようとしていたが、学位授与方針に即した明確な基準は設定されておらず、学習成果を適切に把握及び評価しているとはいえない状況であった。
	大学評価後の改善状況	現状では改善には至っていない。 《改善に向けた今後の取り組み》 大学運営会議は、教務委員会に対して、新しい学位授与方針に明示した学習成果を適切に把握及び評価する方策について検討し、2023 年度中に改善案を提出するよう指示している。(資料 2-(2)-4-1)
	「大学評価後の改善状況」の根拠資料	資料 2-(2)-4-1 第 179 回 (2023 年 6 月) 教授会資料 2023 年教務委員会年間活動計画
＜大学基準協会使用欄＞		
	検討所見	

	改善状況に関する評定	5 4 3 2 1
No.	種 別	内 容
5	基準	6 教員・教員組織
	提言（全文）	F D活動として、授業方法の改善のみではなく、教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化、資質向上を図るための取組みについても行うよう改善が求められる。
	大学評価時の状況	F D活動は、教員授業参観および授業アンケート等による授業方法の改善活動を中心に行われていた。
	大学評価後の改善状況	大学運営会議は、F D委員会（2022 年度からはF D・S D委員会）に対し、授業参観および授業アンケートについては引き続き実施（2020 年・21 年の授業参観は中止）するとともに、F D研修会等において、教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化、資質向上等に資するテーマを意識的に選ぶよう改善指示を行った。 大学評価後のF D研修会は以下の通り。（資料2－（2）－5－1 および資料2－（2）－5－2） ・2019 年 1 月「高等教育財政と無償化政策」 講演：広島大学高等教育研究開発センター 丸山文裕先生 ・2020 年 2 月「岩手県立大学におけるF Dの現状と課題」 講演：岩手県立大学 生島和樹先生 ・2021 年 3 月「現代社会における各種ハラスメントについて」 講演：本学学長・弁護士 石山卓磨先生 ・2023 年 2 月「障害学生の抱える困難の理解と支援～発達障害学生の支援を中心に～」 講演：筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局 脇貴典先生 《改善に向けた今後の取り組み》 「教員の研究活動の活性化」に資する取り組みが不十分であるので、2023 年度以降の研修会で考慮する。

「大学評価後の改善状況」の 根拠資料	資料 2-(2)-5-1 FD 研修会報告 URL : FD 活動 大原大学院大学 会計研究科 (o-hara.ac.jp) 資料 2-(2)-5-2 FD 研修会報告 (ホームページ未掲載分) 追加資料 2-(2)-5-1 FD・SD 委員会規定
<大学基準協会使用欄>	
検討所見	
改善状況に関する評定	5 4 3 2 1
No.	種 別 内 容
6	基準 基準 10 大学運営・財務 (1) 大学運営
	提言 (全文) 事務職員の資質向上を図るため、「SD 活動会議」や外部機関の研修参加等を行っているものの、高等教育を取り巻く環境や教育研究活動及び大学運営に必要な知識・技能を修得するための組織的な活動とはいえない。大学における SD 活動のあり方を見直し、事務職員と教員を対象に、両者の協働による大学運営に向けた SD 活動を実施するよう、改善が求められる。
	大学評価時の状況 大学事務局内では、テーマを決めて「SD 活動会議」を定期的実施している他、外部機関の SD に関する講演会や研修会に参加するなどして事務局職員の資質向上に適宜取り組んでいたが、事務職員と教員を対象とした組織的な活動とは言えなかった。
	大学評価後の改善状況 本学では、2022 年に委員会業務の見直しを行い委員会組織を再編した折に、事務職員と教員両者の協働による大学運営に向けた SD 活動を組織的に行うべく、あらたに FD・SD 委員会を立ち上げた(資料 1-1)。 大学運営会議は、FD・SD 委員会に対して、事務局内では引き続き定期的に「SD 活動会議」による職員の資質向上を図るとともに(資料 2-(2)-6-1)、事務職員・教員を対象に随時 SD 研修会を

		開催するよう改善指示を行った。 大学評価後のSD研修会は以下の通り。(資料2-(2)-6-2および資料2-(2)-6-3) ・2023年1月「我が国の高等教育の課題と展望」 講演：大学マネジメント研究会会長 本間政雄先生 ・2023年6月「駒澤大学における教育のデジタル化」 講演：駒澤大学教務部長・学長補佐・GMS学部教授 絹川真哉先生
	「大学評価後の改善状況」の根拠資料	資料1-1 第166回(2022年4月)教授会資料 新年度の委員会について 資料2-(2)-6-1 SD活動会議 資料2-(2)-6-2 SD研修会報告(1) 資料2-(2)-6-3 SD研修会報告(2)
	＜大学基準協会使用欄＞	
	検討所見	
	改善状況に関する評定	5 4 3 2 1
No.	種 別	内 容
7	基準	基準10 大学運営・財務 (2) 財務
	提言(全文)	大学の財務運営について、当面は収支差額のマイナスを法人が内部補填するとしており、大学部門の事業活動収支差額は入学定員充足率の上昇により改善傾向にあるものの、依然としてマイナスで推移していることから、法人への依存度が高いため、大学部門の教育研究活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政基盤を有しているとはいえない。「第二期中長期ビジョン」に示した「継続的な事業活動のための財政基盤の確保」を実現するためにも、数値目標を含む中・長期財政計画を策定し、財政基盤の確立に取り組むよう改善が求められる。
	大学評価時の状況	「第二期中長期ビジョン」では「継続的な事業活動のための財政基盤の確保」の手段として、 (イ) 入学定員の増加と定員充足 (ロ) 積極的な学生募集 (ハ) 学生納付金以外の資金の獲得

	を掲げたが、数値目標を含む具体的な計画の策定には至っていなかった。																				
大学評価後の改善状況	大学執行部（2022 年度からは大学運営会議：議長は学長）は、新校舎への移転（2019 年 4 月）によって教室収容能力が拡大したことを背景に、「入学者数の増加による授業料収入増加」を収支改善に向けた方策の中心に位置付け、志願者数の推移を見極めながら、入学定員を 2019 年度の 35 名から 5 年程度で 60 名にまで増加させることを目標とすることにした。 志願者数増加の施策として、 ・土曜日開講科目の増加や授業時間帯の夜間へのシフトなど社会人が履修しやすい環境整備 ・魅力あるホームページへの改訂、出願書類のダウンロード化による利便性の改善 ・個別相談会および校舎見学会の回数増加 ・会計事務所への DM、訪問 ・留学生特別入試の回数増加、留学生用入試説明相談会・留学生向けオープンキャンパスの実施、都下日本語学校訪問 等の活動を積極的に行った結果、社会人および留学生の志願者増加により毎年入学定員を常に上回る志願者を得る見込みが立つようになった。また、論文指導教員も毎年 1～3 名の新規採用の目途が立ったことから、以下のように 2022 年度には入学定員を 60 名まで増やすことができ、以降これを充足させている。（資料 2－（2）－7－1） <table><tr><td></td><td>入学定員</td><td>入学者数</td><td>在籍者数</td></tr><tr><td>2020 年度</td><td>35 名</td><td>44 名</td><td>75 名</td></tr><tr><td>2021 年度</td><td>45 名</td><td>58 名</td><td>102 名</td></tr><tr><td>2022 年度</td><td>60 名</td><td>62 名</td><td>122 名</td></tr><tr><td>2023 年度</td><td>60 名</td><td>67 名</td><td>128 名</td></tr></table> この結果、収支差額は改善し、2022 年度には、私立大学等経常費補助金の給付を含めてではあるが、大学単体の収支差額はプラスに転じている。（資料 2－（2）－7－2）		入学定員	入学者数	在籍者数	2020 年度	35 名	44 名	75 名	2021 年度	45 名	58 名	102 名	2022 年度	60 名	62 名	122 名	2023 年度	60 名	67 名	128 名
	入学定員	入学者数	在籍者数																		
2020 年度	35 名	44 名	75 名																		
2021 年度	45 名	58 名	102 名																		
2022 年度	60 名	62 名	122 名																		
2023 年度	60 名	67 名	128 名																		
「大学評価後の改善状況」の根拠資料	資料 2－（2）－7－1 入学定員、入学者数、社会人学生数、留学生数の推移 URL：																				

		04 gakusei 1686275538.pdf (o-hara.ac.jp) 資料 2 - (2) - 7 - 2 大学収支状況 資料 2 - (2) - 7 - 3 財務の指定資料 「財務計算書類」「監事による監査報告書」「監査法人又は公認会計士による監査報告書」				
<大学基準協会使用欄>						
	検討所見					
	改善状況に関する評価	5	4	3	2	1

＜大学基準協会使用欄＞

【概評】

＜改善に向けた大学全体の取り組み＞

The diagram consists of three horizontal rows of circles. The top row contains 20 identical circles. The middle row also contains 20 identical circles. The bottom row contains 10 identical circles, followed by six dots ($\cdot \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot$), and then a single small open circle at the end.

＜是正勧告、改善課題の改善状況＞

A diagram consisting of three rows of circles. The first two rows each contain 20 identical open circles. The third row contains 9 open circles followed by six dots ($\cdot \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot$) and one small filled circle.